

## JIS化委員会報告

2022年11月25日

1. 10/11（リモート）：第4回 JIS X 0164-11 原案作成委員会  
最終原稿を確認し、JSA に提出。今後パブリックコメントへの回答はあるが、その後 JIS 化される。JIS 化後、技術委員会での報告と New Letter への投稿ある。
2. 2022.11.14-17 23:00-26:00（リモート）：WG 2 1 中間会議：  
深夜の 11 時から 3 時間の予定で 4 日間実施された。WG 2 1 の規格とスタディグループ（SG）の状況報告と今後の方針について審議が行われた。より詳細な報告は、WG21 からの正式な会議報告後に行う。
  - WG21 で出版済の規格
    - ✓ ISO/IEC 19770-5 : 2015 第 2 版（概要及び用語）
    - ✓ ISO/IEC 19770-1 : 2017 第 3 版（要求事項）
    - ✓ ISO/IEC 19770-2 : 2015 第 2 版（ソフトウェア識別タグ）
    - ✓ ISO/IEC 19770-3 : 2016 第 1 版（権利スキーム）
    - ✓ ISO/IEC 19770-4 : 2017 第 1 版（資源利用測定）
    - ✓ ISO/IEC 19770-8 : 2020 第 1 版（Mapping）<https://itamstandards.org/19770-8/>
    - ✓ ISO/IEC 19770-11 : 2021 第 1 版（認証・監査機関への要求事項）
  - WG21 で開発中の規格
    - ✓ **ISO/IEC 19770-1 : 202x 第 4 版**（要求事項）：数回の事前的な会議を開始、改版に当たっての方針が報告され、審議を行った。・Risk の軽減だけでなくコスト削減、運用改善にも焦点を当てる、・PDCA 構造の明確化、・申請書の明確化、・Tiers から FinOps に沿ったフェーズ、プロセス改善、・55000 へのフォーカスを減らす、・略語定義の明確化、・非必須項目、・管理システムへの追加変更などが方向性として提示された。
    - ✓ ISO/IEC 19770-2 : 202x 第 3 版（ソフトウェア識別タグ）：米国の大統領令の S-Bom 対応や Jason 対応などで遅れているが投票に向け進んでいる。また、Linux Foundation（SPDX を推進）にもコンタクトしている。
    - ✓ ISO/IEC 19770-3 : 202x 第 2 版（権利スキーム）：変更の要求をあまり受けていないこともあり、進んでいない。ただ、他の Tag を議論するなかでの改版は必要であり、別の Editor を割り当てることも必要（現在は Editor: John, Co-editor: Ben）。
    - ✓ ISO/IEC 19770-4 : 2017 : ISO で 5 年ごとの見直し SR（Systematic Review）投票が行われている。日本の SC7 専門委員会では、SR 投票で Confirm 回答している。WG21 としては、第 2 版を検討しているがまだ結論は出ていない。
    - ✓ ISO/IEC 19770-5 : 202x 第 3 版（概要及び用語）：SC7 には、WG21 として CD・NW の投票申請は行っている。り近々 SC7 からの投票が実施される予定。
    - ✓ ISO/IEC 19770-6 : 202x 第 1 版（ハードウェア識別タグ）：CD 投票ではネガティブなコメントはなかったのでコメントを反映し、DIS 投票に進んでいる。11/16 に投票が開始された。日本では WG21 で DIS 文書へのコメントを募集中。
    - ✓ ISO/IEC 19770-7 : 202x 技術レポート（タグオーケストレーション）：情報構造系の標準がすべ

て関係することから、方針を含め議論が WG21 内で行われている。

- ✓ **ISO/IEC 19770-9 : 202x** 第 1 版 (ITAM インベントリスキーマ) : 初期段階としての議論が SG 内で行われている。
- ✓ **ISO/IEC 19770-10 : 202x** 第 1 版 TS (ITAM 導入ガイダンス) : TS (技術仕様書) のドラフトの変更内容と追加の内容が説明された。各 SG からの文書が附属書に追加されている。WD は ISO-IEC JTC 1-SC 7-WG 21\_N2193\_19770-10 v1.9 2022 11 02.pdf として登録されている。
- ✓ ISO/IEC 19770-12 : 202x 第 1 版技術仕様 (オープンソース・仮想コンテナ) : 見るべき進展はないが、White Paper のようなものを出そうと思っているとのこと。Technical Specification とするかどうかはまだ分からない。
- ✓ ISO/IEC 19770-13 : 202x 第 1 版技術仕様 (サステナビリティ) : 現在、White Paper が ITAM Forum と WG21 のホームページで公開されている。今後、ISO の TS となるように議論を深めたい。
- SG の状況
  - ✓ ITAM Charter & WG21 Strategy : 特に進展はない。
  - ✓ **ITAM Implementation Guidance** : 19770-10 で一緒に報告。
  - ✓ ITAM and Cybersecurity & Blockchain : CISCO の Yuri が率いていたが、担務が変わったので今後 Martin がリーダーとなる。
  - ✓ ITAM OpenSource & Virtual Containers : Trent が引き続き担当する。
  - ✓ **ITAM and Sustainability** : リーダを Martin から Jan に変更することになっていたが今回は Martin が報告。White ペーパーは、HP で公開されおり、活動としてはあまり変更がない。
  - ✓ **ITAM and FinOps** : FinOps Foundation と合同 Meeting を開催している。詳細は、<https://events.finops.org/special-interest-group-itam/> を参照。資料は、GoogleDrive にあるがメンバーになる必要がある。
- 新しい ITAM の話題 : コンビナーの Ron が毎回 ITAM で注目されているトピックスについて報告しているが今回は次の 3 点が紹介された。
  - ✓ ITFM/TBM(IT Financial Management/ Technology Business Management): TBM は ITFM の技術の一つで TBM Council (User 数 10,000 以上) で推進されている。<https://www.tbmcouncil.org/> を参照。
  - ✓ CAASM(Cyber Asset Attack Management):新しい考えではないが 2 年ぐらい前から Gartner の報告で言われるようになった。セキュリティチームが永続的なアセットの可視性と脆弱性の課題を解決できるようにするためのテクノロジーで、既存のツールとインベントリなどデータからデータを集約して、組織の攻撃対象領域全体の継続的な多次元ビューを提供するというもの。IT アセットのすべての情報が対象となるので ITAMS が重要となる。
  - ✓ Composable business : これも Gartner の考えですが、シャドウ IT がビジネスをリードする IT になり今後は「Composable business」でなければならないということです。多様な変革のなかにあって企業の色々な機能がモジュール化され柔軟に構成、再構成が行えるようになっていなければならないということです。ここでも ITAMS が重要になってきます。
- 今後の会議予定
  - ✓ Monthly Meeting 25 January 2022 Virtual
  - ✓ Plenary Meeting 5-9 June 2023 Okayama, Japan (Confirmed) Hybrid

以上